

令和元年9月市議会定例会
副市長報告案件説明

[説明者；樋口副市長]

報告案件につきまして、御説明申し上げます。

報告第29号から報告第34号の6件は、いずれも事故に係る損害賠償で、報告第29号は、本年5月、市内信更で発生した道路管理上の事故に係る損害賠償額について、報告第30号は、本年6月、市内吉田で発生した道路管理上の事故に係る損害賠償額について、報告第31号は、本年6月、市内篠ノ井で発生した道路管理上の事故に係る損害賠償額について、報告第32号は、昨年7月、市内鶴賀で発生した交通事故に係る損害賠償額について、報告第33号は、本年4月、市内高田で発生した物損事故に係る損害賠償額について、報告第34号は、本年5月、市内上松で発生した交通事故に係る損害賠償額について、市長専決処分指定の件第4の規定により、それぞれ専決処分をいたしたものです。

次に、報告第35号から報告第38号の4件は、いずれも、長野市が一定割合以上を出資している法人の経営状況につきまして、地方自治法第243条の3第2項の規定により、御報告申し上げるものでございます。

まず、報告第35号 地方独立行政法人長野市民病院の経営状況につきまして、御報告申し上げます。

初めに、地方独立行政法人に移行して3年目となり、第1期中期計画期間の最終年度にあたる平成30年度の事業実績につきましては、長野市民病院が担うべき医療である「救急医療」、「がん診療」、「脳、心臓、血管診療」を中心に診療機能の一層の充実に努め、地域の中核病院として、他医療機関等との機能分担、連携強化を図りながら、訪問看護ステーションや地域包括ケア病棟を活用し、在宅療養や在宅復帰の支援にも積極的に取り組みました。

その結果、受け入れた延べ入院患者数は13万9,481人、延べ外来患者数は23万5,467人となっています。

また、平成30年度決算は、経常収益152億1,331万7,889円に対し、経常費用は149億7,711万8,281円で、経常利益は2億3,619万9,608円となり、臨時損益を加えた総利益は、2億601万1,752円の黒字決算となったものでございます。

次に、令和元年度の事業計画につきましては、公立病院としての使命と責任を果すため、長野医療圏北部における医療の拠点として地域完結型医療の実現を目指してまいります。

主な年度目標として、新入院患者数1万1,370人、医業収支比率92.3%などを設定し、予算では収入総額151億9,200万円、支出総額151億1,900万円を見込むものでございます。

次に、報告第36号 公益財団法人 ながの観光コンベンションビューローの経営状況につきまして、御報告申し上げます。

初めに、平成30年度の事業実績でございますが、コンベンション事業につきましては、各種コンベンション及び合宿の誘致に努めたほか、開催された各種コンベンション、計136件に対する支援事業を実施いたしました。

また、観光振興事業につきましては、観光案内所の運営、観光パンフレット・ポスターの作成及び各種宣伝媒体等を活用した観光宣伝事業、旅行業登録による着地型旅行商品の企画・販売、フィルムコミッション事業等を実施したほか、平成29年度から令和3年度までの5ヵ年を期間とする長野市観光振興計画に関連した事業、並びに長野県及び県内の各自治体、観光関係者等とともに、J R東日本、J R東海の2社と連携して実施した「信州アフターデスティネーションキャンペーン」に関連した誘客事業を展開いたしました。

この結果、平成30年度の決算額につきましては、コンベンション事業費として6,416万2,791円、観光振興事業費として1億4,700万3,419円、管理費と合せた経常費用計は2億5,354万7,242円となり、正味財産期末残高は1億2,111万3,986円となったものでございます。

次に、令和元年度の事業計画及び予算につきましては、コンベンション事業費として 6,927万 1 千円、観光振興事業費として 1 億5,692万円を計上したものでございます。

次に、報告第 37 号 株式会社エムウェーブの経営状況につきまして、御報告申し上げます。

株式会社エムウェーブが指定管理者として運営しております長野市オリンピック記念アリーナ「エムウェーブ」及び長野市若里多目的スポーツアリーナ「ビッグハット」の管理運営事業について御説明申し上げます。

初めに、第 22 期のエムウェーブの事業実績として、貸館運営に関しましては、継続的に御利用いただいている顧客への営業も含め、コンサート、展示会など大規模イベント等の誘致に努め、延べ利用者数は 31 万 4,487 人となりました。

アイスリンク運営に関しましては、スポーツ庁から委託を受けて実施しているナショナルトレーニングセンターとして、延べ利用選手数 1 万 6,614 人、市内小学校スケート教室の延べ参加者数 7,294 人など、シーズン中の延べ利用者数は 7 万 4,858 人となりました。

続きまして、ビッグハット及び若里市民文化ホールの事業実績でございます。貸館運営に関しましては、コンサート、展示会及び各種団体の大会等の様々な分野のイベントを積極的に誘致し、延べ利用者数 37 万 5,161 人となりました。

アイスリンク運営に関しましては、全国中学校スケート大会やオールドタイマーアイスホッケー大会の開催等により、延べ利用者数は 1 万 3,602 人となりました。

第 22 期収支決算につきましては、エムウェーブ、ビッグハット及び若里市民文化ホールを合わせ、売上高は 6 億 4,091 万 8,543 円となり、販売費及び一般管理費等 6 億 836 万 5,190 円を差し引いた後の営業利益は 3,255 万 3,353 円となりました。

また、営業外損益を合わせた経常利益は 1,385 万 3,551 円、税引き後の当期純利益は 800 万 8,844 円となったものでございます。

次に、第 23 期の事業計画につきましては、エムウェーブ及びビッグハット両施

設を一括運営しているメリットを生かしつつ、大型イベントの企画、誘致を進めるとともに、継続的に御利用いただいている顧客に対する営業を含めた積極的な営業展開とサービスの向上に努めてまいります。

冬期のアイスリンク運営に関しましては、ナショナルトレーニングセンターとして競技者の利用促進をはじめ、大勢の皆様が身近なレジャーとして気軽にスケートを楽しんでいただけるよう、アイススケートの魅力について積極的な情報発信に努めてまいります。

運営面においては、更なる合理化を図ることにより、売上高 6 億 2,568 万 9 千円、事業費 6 億 633 万 5 千円、営業外損益を合わせた経常利益 2,013 万 1 千円と見込んでいるものでございます。

次に、報告第 38 号 公益財団法人 長野市スポーツ協会の経営状況につきまして、御報告申し上げます。

初めに平成 30 年度の実績につきましては、加盟 42 団体に対し、競技水準向上事業として、選手・指導者の強化・育成等に対する補助を 36 件行うとともに、スポーツ普及・交流事業として、市民スポーツイベントや教室開催事業等に対する補助を 88 件行いました。

この結果、平成 30 年度の決算につきましては、スポーツ振興支援事業費として、3,280 万 2,073 円、管理費と合わせた経常費用計は、4,123 万 1,667 円となり、正味財産期末残高は 6,096 万 5,484 円となったものでございます。

次に、令和元年度の事業計画及び予算につきましては、競技水準の向上及び地域スポーツの推進のため、スポーツ振興支援の事業費として、3,506 万 2,000 円を計上したものでございます。

以上で、報告案件の説明を終わります。